



「弘法大師坐像（萬日大師像） 金剛峯寺」 一般的な弘法大師像は顔を正面に向けているが、万日に及ぶある修行者の労に報い、大師が夢に現れ、左側を向かれた。その後、修行堂の大師像を確かめたところ左側を向いていたという記録があり、本像はその伝承を伝えている。

震宝館だより

題字・畚野光義師

霊宝館だより 第143号

令和5年7月9日発行
和歌山県伊都郡高野町高野山3006
公益財団法人高野山文化財保存会
高野山霊宝館
電話0736-56-2029
URL <https://www.reihokan.or.jp>

利用案内

開館時間	5月1日～10月31日 8時30分～17時30分 11月1日～4月30日 8時30分～17時00分
休館日	年末年始のみ (展示替えに伴う臨時休館あり)
拝観料	大人 1300円 高・大学生 800円 小・中学生 600円 高野町に住居票がある方、高野町内の学校に在籍する学生の方は入館無料です。 (住所記載の証明書提示要)
専用駐車場あり	

宗祖弘法大師御誕生1250年 大法会記念展

「お大師さまから・ お大師さまへ」

開催中～10月9日(月・祝)

第143号 目次

宗祖弘法大師御誕生一二五〇年大法会記念展のご案内	2～3
収蔵品の紹介112	4
高野山の文書(二十三)	5
高野山の古建築 第四十一回	6
高野山の生き物 第六回	7
高野山霊宝館からのお知らせ	8

毎月21日(弘法大師の日) ご来館の方にプレゼントあり!

宗祖弘法大師御誕生一二五〇年大法会記念展

「お大師さまから・お大師さまへ」

令和5年4月15日(土)～10月9日(月・祝)

1期 令和5年4月15日(土)～5月28日(日) ※終了

2期 令和5年5月30日(火)～7月9日(日)

3期 令和5年7月15日(土)～8月27日(日)

4期 令和5年8月29日(火)～10月9日(月・祝)

※臨時休館日 7月10日(月)

今年、宝龜五年(七七四)に弘法大師空海(お大師さま)が御誕生して、一二五〇年目の年に当たります。これを記念して、ゆかりの文化財を展示し、現代に残る名宝を通じてお大師さまの足跡を紹介します。また、入定されてからも大師のもとに奉納された文化財も合わせて展示します。脈々と受け継がれてきたお大師さまへの信仰を感じ取ってください。

3期・4期の主な展示品

■ 絵画

重文 一字金輪曼荼羅図 遍照光院【3期】

重文 尊勝曼荼羅図 宝寿院【4期】

重文 丹生・狩場明神像 金剛峯寺【3期】

重文 山水屏風 金剛峯寺【3期】

重文 高野大師行状図画 地蔵院【1～4期】

※場面毎に展示替えあり

弥勒菩薩像 金剛峯寺【3・4期】

紅顔梨色阿弥陀如来像 宝亀院【3・4期】

愛染明王像 金剛峯寺【3・4期】

特別公開



国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺【3・4期】



重文 金銅三鈷杵(飛行三鈷杵) 金剛峯寺【3・4期】

重文 一字金輪曼荼羅図 遍照光院【3期】



重文 尊勝曼荼羅図 宝寿院【4期】





重文 山水屏風 金剛峯寺【3期】



国宝 細字金光明最勝王經 龍光院【3・4期で巻替有】



重文 即身成仏品 金剛峯寺【4期】



愛染明王像 金剛峯寺【3・4期】



弥勒菩薩像 金剛峯寺【3・4期】



胎藏界大日如来像 宝寿院【3期】



高野曼荼羅図 西禅院【3・4期】

工芸

- 高野山絵図 (万治元年) 金剛峯寺【4期】
- 星伊曼荼羅図 浄菩提院【3・4期】
- 荼吉尼天像 親王院【3・4期】

- 重文 金銅三鈷杵 (飛行三鈷杵) 金剛峯寺【3・4期】特別公開
- 重文 独鈷杵 (金銅仏具のうち) 金剛峯寺【3・4期】
- 重文 五鈷鈴 (金銅仏具のうち) 金剛峯寺【3・4期】
- 銀合金小皿 金剛峯寺【3・4期】
- 金銅蓮台形舍利容器 金剛峯寺【3・4期】

彫刻

- 国宝 諸尊仏龕 金剛峯寺【3・4期】特別公開
- 重文 狛犬像 天野社【1〜4期】
- 弘法大師坐像 (萬日大師像) 金剛峯寺【1〜4期】

書跡

- 国宝 続宝簡集第11 金剛峯寺【4期】
- 国宝 続宝簡集第12 金剛峯寺【3期】
- 国宝 細字金光明最勝王經 龍光院【3・4期で巻替有】
- 重文 崔子玉座右銘断簡 宝亀院【3期】
- 重文 即身成仏品 金剛峯寺【4期】
- 御請来目録 西南院【3・4期】
- 三社託宣 (織田長好奉納) 金剛峯寺【3・4期】
- 華嚴経 卷七十一 金剛峯寺【3・4期】

※期間中、一部展示替を行います。
※文化財の保存上、展示品が替わる場合があります。

次回の展覧会予告

令和5年度秋期企画展
「弘法大師空海の弟子たち」

令和5年10月14日(土)〜令和6年1月14日(日)
※12月28日(木)〜1月4日(木) 休館

収蔵品の紹介 112



図1 重文『高野大師行状図画』第巻三「大師 擲 三鈷杵」 地蔵院蔵
浜から持っていた三鈷杵を空中に願いを込めて擲ち、三鈷杵が雲に入っていく場面



図2 重文 金銅三鈷杵（飛行三鈷杵） 金剛峯寺蔵

『高野大師行状図画』（地蔵院蔵）とは、弘法大師空海（お大師さま）の一代記、ご誕生からご入定後、大師号を贈られるまでを描いた全六巻で制作された伝記絵巻物です。構成は、詞書と絵を交互に書いた物語が全五〇場面から成ります。全巻を通して上下の界線があり、各段の詞と絵の料紙を分けずに書いてあることから、転写本としての性質をもち、やや柔らかい描線や水彩画的な色彩などの特徴から、制作時期が鎌倉時代から南

北朝時代の転写本とされています。この時代は、各宗派の祖師高祖の伝記絵巻物が、盛んに作られており、この中でも特に空海の一代記は、他宗派のものに比べて数多く作られています。特に本絵巻は、六巻本（巻第一は江戸時代の補写）が唯一、そろっているものとして大変貴重なものです。

図1は、巻第三の最後の場面で、空海が入唐留学を終えて、日本に帰国しようとした時に唐の明州の浜より、密教を広めるために適した場所を求めて、持っていた三鈷杵を空中に願いを込めて擲つ場面です。また、この時の三鈷杵と伝わるものが図2になります。通称「飛行三鈷杵」と呼ばれ、空海が擲った後、高野山（現在の伽藍）の松の木（三鈷の松）に掛かっていたとされ、真言密教の根本道場を高野山で開く決意をした、との由縁があります。

本絵巻は、今回の展覧会「お大師さまから・お大師さまへ」では、一期から四期にかけて、全巻の展示をいたします。また、飛行三鈷杵も三期と四期に展示いたします。本年は空海のご誕生して一二五〇年目の記念の年になります。今回紹介したものを含んだ空海ゆかりの文化財を通じて、空海の事績をより、多くの方に知っていただけたら、幸いです。

（和多 智恵光）

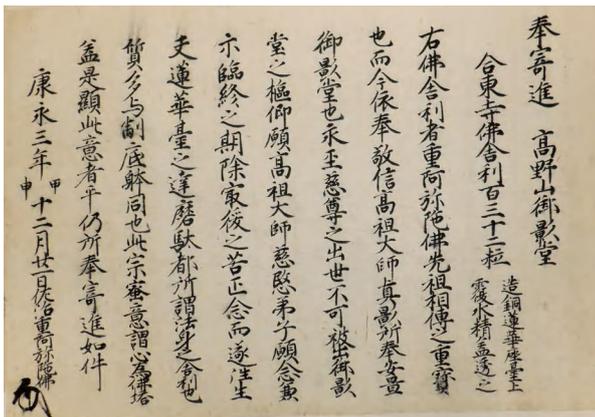
重要文化財
高野大師行状図画 六巻
紙本著色 鎌倉時代／南北朝時代（十四世紀） 地蔵院蔵

高野山の文書 (二十三)

「金銅蓮台形舍利容器と寄進状」

弘法大師空海（お大師さま）の御影が掛けられている伽藍御影堂（の宝庫）には、弘法大師の徳を慕って多くの文物が寄進・奉納されました。そうした文物が寄進された経緯を知るのに、重要な役割を果たす文書の一つが寄進状です。今回紹介するのは、「佐治重阿弥陀仏舍利寄進状」（国宝『続宝簡集』巻八所収、金剛峯寺蔵）です。

この寄進状によると、康永三年



「佐治重阿弥陀仏舍利寄進状」（国宝『続宝簡集』巻八所収）

【釈文】

奉寄進 高野山御影堂
合東寺仏舍利百三十二粒 造銅蓮華座上 覆水精蓋透之

右仏舍利者重阿弥陀仏先祖相伝之重宝也而今依奉敬信高祖大師真影所奉安置御影堂也永至慈尊之出世不可被出御影堂之極仰願高祖大師慈愍弟子願念兼示臨終之期除最後之苦正念而遂往生夫蓮華台之達磨駄都所謂法身之舍利也質多与制底体同也此宗密意謂心為仏塔蓋是顯此意者乎仍所奉寄進如件
康永三年甲申十二月廿一日 佐治重阿弥陀仏

(花押)

（一三四四）十二月二十一日に、佐治重阿弥陀仏という人物（詳細は不明。「阿弥陀仏」であることから阿弥陀信仰の信徒と考えられます）が、「東寺仏舍利百三十二粒」と、それを入れる蓮華台の舍利容器（水晶の蓋で覆い中が透けて見える）を、高野山御影堂に寄進したとあります。

「仏舍利」とは、釈迦の遺骨のことです。弘法大師も仏舍利を八十粒持ち帰り、京都の東寺に納められた

ので、「東寺仏舍利」などと呼ばれたようです。重阿弥陀仏が寄進したのも「東寺仏舍利」ですが、持ち帰ったのが八十粒しかないのに、百三十二粒も寄進したとはどういうことでしょうか。実は、この東寺仏舍利は、時代と共に数が増減し、多い時には四千粒を超えていたと言います。東寺の寺誌『東宝記』によると、国が豊かな時は増え、衰退すると減るとされていますが、これは信仰上のことで、実際は弘法大師以後の僧が、中国から東寺に持って帰ってきて増やしたようです。

寄進状の話に戻ると、重阿弥陀仏は、「弘法大師の真影を敬いの気持ちをもって御影堂に安置します。五十六億七千万年後に弥勒菩薩が下生するまで、御影堂から出さないうにしておきたい。また、弘法大師に



金銅蓮台形舍利容器①



金銅蓮台形舍利容器②
(透けて中が見える)

願うことは、弟子である我々を慈しみ、あらかじめ臨終の時期を示し、臨終の苦しみを取り除き、無事極楽往生することです。」と記しています。弘法大師への信仰と、極楽往生という願いから阿弥陀信仰が読み取れる内容だと思えます。また、寄進状の日付が「二十一日」であること（弘法大師の入定が三月二十一日なので）も弘法大師への信仰の厚さが読み取れます。「夫蓮華台心為仏塔」は、「大日経疏」から引用された一文で、「蓮華台の達磨駄都（ダマダド）は、いわゆる法身舍利（法舍利とも。釈迦の遺骨の代わりに經典などを代替物としたもの。）である。（梵音で）質多（心）と制底（塔）は同じ字体で、その秘密として、心を仏塔とした。」と訳せますが、不勉強のため意味がわからず、今後の課題とします。

今回の展覧会で展示する「金銅蓮台形舍利容器」（金剛峯寺蔵）の底面には、「佐治重阿弥陀仏」という針書があり、今回紹介した文書で寄進されたものと特徴が合致するものです。この寄進状がなければ、重阿弥陀仏が「いつ、どのような思い」で寄進したかわからなかったことでしょう。

(研谷 昌志)

※今回紹介した文書は特別展で展示しませんが、寄進された「金銅蓮台形舍利容器」を展示します

連載

重要文化財 普賢院 四脚門

高野山の古建築

第四十一回

鳴海 祥博



正面の全景 「四脚平唐門」という形式で、全国的に例は少なく、しかも特に東照宮に用いられた建築様式のような。赤い塗装や文様彩色が施されているのも、高野山では特異な存在である。



『高野山壇上寺家絵図』の東照宮 宝永4年（1707）の製作。写真の中央に南北に通る道路があり、右が現在の総本山金剛峯寺となっている「青巖寺」、左が行人方の本山「興山寺」で、その北に「東照宮」がある。透塀の中央にあるのが普賢院四脚門だと想定されている。



軒裏と妻飾りの詳細 両妻は隅柱に組物を、中間には臺股を置いて妻虹梁を掛け、その上に大斗絵様肘木を置いて棟木を受ける。桁行の中央の大瓶束は断面が四角で足元が葉のような姿となっていること、頂部四方に木鼻を付けることなど斬新な意匠である。



背側面の全景 屋根を側面から見たとき凸形曲線となっているのが「平唐門」である。中央に2本の丸柱を建て、その前後に断面が四角な控えの柱が建つ形式の門が「四脚門」。その両方の形式を持つこの門は「四脚平唐門」と称され、全国的にも珍しい。

「四脚門」は中央の扉を建て込む位置に二本の丸柱を建て、その前後に断面が四角な控えの柱が建つ形式の門です。実際は六本の柱が建つのに、何故か「四脚」門と称されています。

「平唐門」は、側面から屋根を見ると、中央の棟の部分が丸い凸型で、軒先に向かって反転して凹型に反っている、そんな形の屋根をもつ門

普賢院は、高野山内で最も参詣者の行き交う千手院橋交差点の北東にある寺院です。お寺の正門は西の大通りに面していますが、四脚門は境内の南にある裏門で、小田原天神社の広場に面しています。門には赤い塗装や文様彩色が施されていて、高野山では他に例のない特異な門です。

この門は正面の柱間が二・五mほどの「四脚平唐門」という形式です。これは平面形式が「四脚門」で、屋根が「平唐門」という形式になっています。

明治二十一年（一八八八）三月に山内の寺院五〇カ寺、町屋一三軒が焼失する大火災が発生し、普賢院も類焼しました。その再建に際して、廃絶していた「行人方東照宮」の建物の払い下げを受け、移築されたのがこの普賢院四脚門なのです。

記録によると、寛永に創建された行人方東照宮は十八年後の慶安二年（一六四九）に

を指します。

重要文化財に指定されている四脚門は八四棟、平唐門は三九棟ありますが、その内「四脚平唐門」は普賢院を含めて六棟だけです。建築的には随分珍しい形の門なのです。しかも普賢院以外は日光、静岡県の久能山、和歌山、群馬の世良田、滋賀の日吉大社にある何れも東照宮の門だといふことが特筆できます。

そして実はこの普賢院四脚門も、かつて高野山内にあった「行人方東照宮」の門だったのです。「四脚平唐門」という形式や赤い塗装や文様彩色、そして金色の鍔金具で彩られた華やかさは、まさに「東照宮」にふさわしい意匠なのです。

「行人方東照宮」は現在の本山金剛峯寺の西北裏山に、寛永八年（一六三二）に創建されたのですが、明治になって廃絶しました。

普賢院四脚門は寛永八年に創建された行人方東照宮の貴重な遺構に違いないと思うのです。

仏殿の形式に建て替えられたとされています。従って、普賢院四脚門は寛永の創建期のものか、慶安の建て替え時期のものか、両様の可能性があるのですが、残念ながら棟札などの決定的な根拠は無く、明確ではありません。

この門が建てられたのは何時なのでしょう。寛永か慶安かわずか十八年の差は、建築の様式論では判断が付きません。しかし、赤い塗装や彩色が施されていることが決める手になるのではないかと考えています。

行人方東照宮の拝殿と本殿は、明治二十一年の大火の後、普賢院とその北隣の普門院の本堂として払い下げられたことが記録から明らかとなっています。そしてこの両院の本堂は何れも外部が白木となっています。つまり、慶安に再建された東照宮の仏殿や拝殿の外部は白木だったのです。その本殿拝殿を囲む透塀の正面中央の「四脚平唐門」だけに塗装彩色が施されているのは、異質です。恐らく寛永創建期の東照宮社殿は全てが塗装彩色で飾られていたのではないかと想像します。

キジとヤマドリ (国鳥と日本固有種)

高野山寺領森林組合 西田 安則



図1 芭蕉句碑

中の橋駐車場から奥の院に向かつて参道を行くと、一の橋からの参道と合流します。そこを奥の院に向けて少し行くと右手に化粧地藏があります。その向かいに松尾芭蕉（一六四一—一九九四）の「父母のしきりに恋し雉子の声」の句碑があります



図2 キジ (写真提供：林育造氏)

(図1)。芭蕉は一六八七年に江戸を出発し各地を廻りながら高野山に参拝されたそうです。その時に詠まれた句が二首ありその一つが奥の院にあります。自然石に刻まれた句は、池大雅の書とされています。さてさて、本題はこの句より当時



図3 ヤマドリ

の高野山の景観が何い知れることです。キジの元来の生息環境は、低木林や草原、畑など比較的開けた環境を好む鳥です(図2)。芭蕉が本当に高野山でキジの声を聞いたのであれば、当時の高野山は、深い森林と、明るい草原等と変化に富んだ環境

だったのではないのでしょうか？

高野山では、平成三十年頃までは放鳥されたキジを見ることがありましたが、それ以降キジの姿を見ることはなくなっていました。その代わりにヤマドリというキジの仲間を見ることが出来ます(図3)。キジは日本の国鳥として有名ですが、日本固有種であり、キジよりもさらに長い尾を持ち森林の中で暮らしているためになかなか姿を見ることができないヤマドリは日本だけじゃなく海外の愛鳥家の憧れの的となっています。

ヤマドリは5亜種に分かれており、高野山で生息するヤマドリは亜種ウスアカヤマドリと言われています。ヤマドリも狩猟鳥とされていますが、無策な放鳥は亜種のDNAを乱す恐れがあるのでやってはならないと思います。

高野山霊宝館からのお知らせ

◎ミュージアム法話 開催

「ミュージアム法話」(お坊さんによる法話)を、左記のとおり開催いたしました。

- 5月20日(土) 講師 湯浅宗生 師
- 6月3日(土) 講師 小野聖護 師
- 7月1日(土) 講師 阿部真秀 師



ミュージアムトーク開催風景 (湯浅宗生師)

今後の開催予定

- 8月5日(土)、9月2日(土)、10月7日(土)、11月11日(土)
- いずれも午後1時より約45分

◎霊宝館長 スペシャル・ギャラリートーク 開催

6月10日(土)、大森照龍霊宝館長によるスペシャル・ギャラリートークを開催し、多くの拝観者に展示解説をお楽しみいただきました。



霊宝館長スペシャル・ギャラリートーク開催風景 (大森照龍館長)

◎展覧会予定

◎秋期企画展「弘法大師空海の弟子たち」

- 10月14日(土)～令和6年1月14日(日)
- ※12月28日(木)～1月4日(木)休館
- 国宝 宝簡集・続宝簡集・又続宝簡集 金剛峯寺

- 未指定 仏具類 伝行勝上人所持 蓮華定院
- 未指定 三派廃止沙汰書 金剛峯寺

未指定 明恵上人金剛峯寺巡礼次第 金剛峯寺



明恵上人金剛峯寺巡礼次第 金剛峯寺

◎冬期平常展「密教の美術」

令和6年1月20日(土)～4月14日(日)

◎貸出情報

●武田氏館跡歴史館(山梨県甲府市) 信玄没後450年特別展「戦国大名武田信玄の遺産」

- 4月12日(水)～12月24日(日)
- 未指定 厨子入弁才天十五童子像 成慶院

- 未指定 五鈷鈴 成慶院
- ※展示期間は6月14日(水)～7月31日(月)

●岡崎市美術館(愛知県岡崎市) NHK大河ドラマ特別展「源氏物語」

- 7月1日(土)～8月20日(日)
- 未指定 武田晴信像 持明院
- 未指定 武田頼勝妻子像 持明院

◎高野山霊宝館公式YouTube

高野山霊宝館公式YouTubeに、霊宝館長が展示解説を行う動画がアップされました。皆さま、チャンネル登録(「高野山霊宝館」)して、霊宝館収蔵の文化財の解説をお楽しみください。

- ・展示解説『金念珠』
- ・展示解説『阿弥陀如来坐像』

◎友の会会員募集

- ・会員証提示で会員本人様のみ霊宝館と金堂・大塔の拝観無料
- ・霊宝館発行の季刊誌「霊宝館だより」送付

＜年会費＞

- 一般会員(個人) 3,000円
- 賛助会員(法人) 30,000円
- 皆様のご入会をお待ちしております。